

保育所における自己評価

A：たいへんよい 100%

B：よい 75%

C：一部検討する 50%

D：改善を要する 25%

項目	内 容	評価	意見・改善方法
援助 の 発 達	1. 指導計画の評価を定期的に行い、反省を活かし結果に基づき指導計画を改善している。 ・一人ひとりの子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	B	指導計画の評価は定期的に行っている。 一人ひとりの育ちの目標を立て、発達状況を配慮しながら保育を行った。今後もより良い保育を目指したい。
	2. 一人ひとりの子どもの発達状況、保育目標、保育の実際について話し合うための会議を定期的にかつ必要に応じて開催している。	A	毎月1回の職員会議やかつ必要に応じて、子どもの発達状況や保育についての情報を共有している。
健康 管 理	1. 登園時や保育中の子どもの健康管理は一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	A	保護者からの連絡事項を職員間で共有し、一人ひとりの健康状態に応じた健康管理を実施している。
	2. 感染症への対策についてはマニュアルがあり、発生に際してはその状況を保護者に連絡している。	A	発生状況等は迅速な連絡を行い、感染防止に努めた。
	3. 専門医から指示があった場合において、アレルギー疾患を持った子どもの状況に応じて適切な対応を行っている。	B	専門医からの指示を共有し、子どもの状況を十分理解したうえでの対応を行っている。
	4. 内科検診・歯科検診の結果について職員や保護者に伝達しそれを保育に反映させている。	B	検診の結果連絡は、迅速に行っている。 結果を踏まえた保育に反映させたい。
食 育	1. 食事を楽しむことができる工夫をしている。 ・手作りおやつ、季節感のある旬の食材、喫食状況に基づいた食事内容の改善、食育活動全般など工夫している。	B	コロナ感染防止策を行いながらのクッキングや、旬の食材や手作りおやつを多く取り入れ、子どもたちの状況に応じて反省、改善を行った。
	2. 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	B	離乳食を始め、個別に連絡を取り合い、発達やその日の体調に応じた対応をしている。
	3. 食物アレルギーは、個別に配慮し食事を提供している。	B	朝礼でその日の除去食を伝達、共有し、提供の際は給食担当、保育士がそれぞれ確認を行っている。
保 育 環 境	1. 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。 衛生面の配慮や、不快なおいへの配慮をしている。	A	コロナ対策にも注意を払い、玩具を定期的に消毒するなど衛生面を強化した。また、排水管の清掃を業者に依頼し、不快なおいへの配慮も行った
	2. 生活の場に相応しい環境とする取組を行っている。 ・子どもが不安になったりしたときいつでも保育者が応じられるように身近にいる。 ・くつろいだり落ち着ける場所や、眠くなった時安心して眠ることができる空間が確保されている。	B	子どもが毎日を安心して過ごせる環境を整え、保育士はいつでも笑顔で応じられるように心掛け、子どもとの会話を大切に、気持ちに寄り添った対応に努めた。

項目	内 容	評価	意見・改善方法
保 育 内 容	1. 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている。 ・子どもにわかりやすい温かな言葉づかいで話している。 ・子どもの気持ちを受け止めて、その都度対応している。	B	一人ひとりの思いに向き合い、気持ちを受け止め共感する等、愛情を持った対応に心掛けている。家庭での様子が把握できないときがあるので、保護者との情報共有を強化していきたい。
	2. 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している。	B	個人の状況を把握し、その日に応じた活動を臨機応変に行うなど無理のない保育を行っている。
	3. 環境の構成を意識した保育や過程を常に工夫している。 ・子どもが自発的に活動できるように環境が整備されている。	B	全体的な計画を基本とし、子どもの様子にあわせ環境を変化させるなどの工夫を行った。年齢に合わせた遊びや活動がスムーズにできるよう、複数の種類を用意するなど、子どもが選んで遊べるように配慮を行った。
	4. 身近な自然や社会と関われるような取り組みがなされている。	B	散歩等で身近な自然と触れ合う活動を多く取り入れ、地域の方々との出会いも大切にしている。
	5. 様々な表現活動が自由に体験できるように配慮されている。	B	子どもの主張を受け止めつつ、自信につながる環境作りを心掛けた。また、伸び伸びとした生活や遊びができ、満足感が得られるよう配慮している。
	6. 遊びや生活を通して、人間関係が育つように配慮している。	B	今年度は、SDG sの取り組みを通して、思いやりの心や協同性の育みを目指した。また、子ども同士のやりとりを楽しめるよう必要に応じて仲立ちを行った。
人 権 尊 重	1. 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いをお互いに尊重する心を育つよう配慮している。 ・子どもの権利擁護に関する研修に参加している。	B	子どもの人権を尊重し、気持ちを大事にしながら、声掛けや手立てを心がけ、温かな心が育つよう配慮している。研修会へは数名が参加できた。
	2. 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないよう配慮している。	B	性差への先入観等による意識を植え付けないように配慮し、子どもの思いを尊重している。
特 別 支 援 保 育	1. 医療機関や専門機関から相談や助言を必要に応じて受けられる。	B	関係機関とは、必要に応じて相談、助言を受け連携を図っている。今後も連携を行い、より良い保育を行っていきたい。
	2. 支援が必要な子どもの保護者に適切な情報を伝えるための取り組みを行っている。	C	さまざまな支援の情報を取得し、適切な情報を伝えるように保護者との信頼関係を深め、努力したい。

項目	内 容	評価	意見・改善方法
保護者への支援	1. 医療機関、児童相談所の専門機関と連携をはかり、保護者にとって必要な情報を提供している。	B	いつでも保護者からの要望、相談を受け入れられるように、専門機関との連携を保ち、情報を提供している。
	2. 一人ひとりの保護者と、日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている。	B	送迎時や連絡システム、連絡帳で子どもの健康面や生活面の様子を伝え、情報交換を行っている。保護者からの要望や相談がある時は個別面談を行っている。
要 保 護 児 童 へ の 対 応	1. 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに関係機関などに照会、通告する体制が整っている。	C	今年度は、研修会の機会がなかったが、法人委員会へ参加し知識を深めている。職員間の情報、共有を図り体制を強化したい。
一 時 保 育 の 配 慮	1. 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状況を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている。 ・一時保育を利用する子どもと通常保育の子どもとの交流に配慮している。	A	一時保育児と通常保育児との隔たりを作らず、子どもの心身の状況を考慮し、不安な気持ちにならないよう、安心して過ごせるように努めている。
説 明 責 任	1. 理念や基本方針が利用者等に周知されている。 ・情報提供（パンレットなど）について伝える工夫をしている。	B	入園児の説明や園だよりに保育目標を記載するなどしているが、十分な周知に欠けているかもしれない。ブログやパンフレットなどを利用し、情報伝達の工夫に努めたい。
安 全 対 策 ・ 事 故 防 止	1. 調理場、水回りなどの衛生管理はマニュアルに基づいて適切に実施されている。	A	マニュアルに基づき実施し、日々の掃除をこまめに行っている。今年度は園内の配管清掃を業者に依頼し行った。
	2. 施設の内外・設備の安全点検を計画的に行っている。	A	全職員で当番を決め、毎月の施設内外整備、遊具等の点検を実施している。
	3. 不審者等に対する周到的配慮を行っている。	B	園内研修や訓練を重ねながら反省点を改善し、スタッフ間で理解を深めている。今後、周到的な行動ができるようにしておくことが課題である。
研 修 計 画	1. 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	C	今年度もコロナ感染の影響もあり、研修への参加が少なかった。職員ひとり一人が参加できるように配慮していきたい。
	2. 資質向上の取り組みを行っている。	B	園内研修を行ったり、外部研修で得た学びをまとめ、全職員に回覧、伝達を行い情報を共有することで資質向上を図り、保育に反映させている。

項目	内 容	評価	意見・改善方法
情報保護	1. 乳幼児や保護者に関する個人情報を適正に取り扱っている。 ・遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	C	個人情報に関しては、管理を適切に行い、取扱いに十分注意をしている。法令等の正しい理解への取り組みが不十分であるので、少しでも理解できるように努めていきたい。
苦情処理	1. 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、迅速に対応している。	B	保護者とコミュニケーションを図り、話しやすい雰囲気づくりを行い、信頼関係を深め迅速な対応に努めている。
	2. 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知されている。	B	苦情解決の仕組みが確立され、職員へも十分周知し、処理に関しても伝達を行っている。
地域との交流	1. 地域との関係が適切に確保されている。	B	地域の方には、積極的に挨拶をしたり、園の様子をたよりにした回覧も随分定着してきたと思う。
	2. 保育所が有する機能を地域に還元している。	B	今年度は地域行事にも参加できた。今後も地域に貢献できるよう努めたい。
小学校との連携	1. 小学校との間で行事などの交流する機会を設けており、職員間の研修などの連携体制が整備されている。	B	教諭による保育体験や児童が来園し、保育士の仕事内容について調べたりと交流する機会があった。また、小学校との連絡会に参加し、就学に向けた連携を図っている。